HPV 検査ってなぁに？

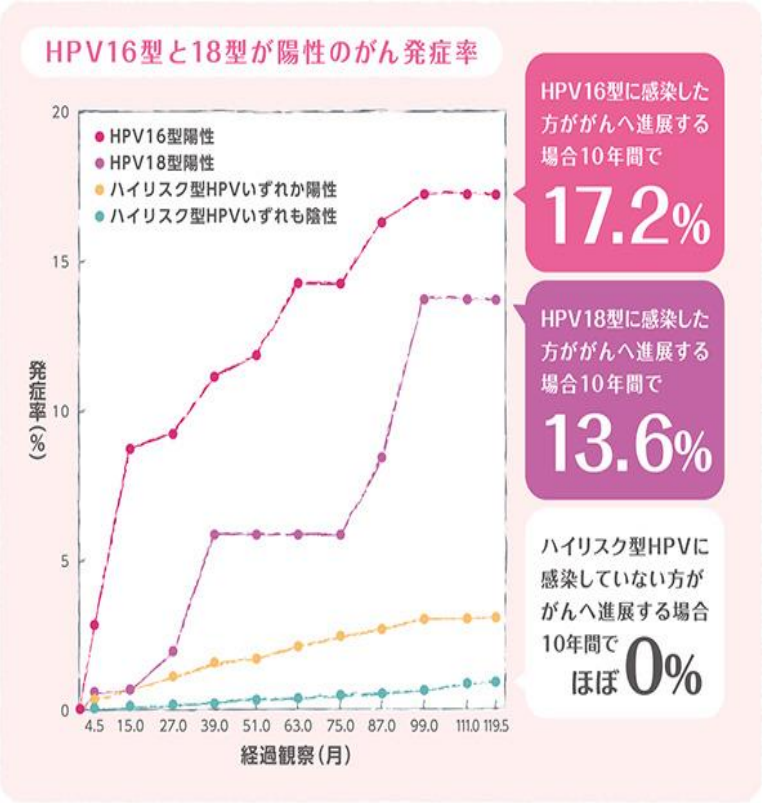
HPV 検査とは

HPV とはヒトパピローマウイルス（Human papillomavirus：HPV）の略で、現在までに 100 種類以上の型が発見されています。この HPV は性交渉により誰もが感染する可能性のあるごくありふれたウィルスで、常に 10%ほどの女性が感染していると言われていますが、一部の型において子宮頸がんの原因になることが判っています。
HPV はがん化との関連から、低リスク型 HPV と高リスク型 HPV とに分けられます。HPV に感染したからといって必ずしもがん化するわけではなく、たとえ高リスク型 HPV に感染してもほとんどが一過性の感染であり、免疫力により自然に消失します。しかし、高リスク型 HPV が長期間（平均で 10 年以上の長い期間）持続感染すると、全感染者の約 1%が子宮頸がんに進行する可能性が出てきます。高リスク型 HPV には、16、18、31、35、52、58 など十数種類の型があります。

子宮がん検査には「細胞診」と「HPV 検査」の 2 種類があります

「細胞診」：子宮頸部の細胞の変化を調べる
子宮頸部の細胞を採取して顕微鏡で調べる検査です。この「細胞診」では、子宮頸がんのがん細胞だけではなく、感染によって変化し、がんに進行する「異形成」といわれる状態の細胞を発見できます。

「HPV 検査」：ウイルス感染を調べる
採取した細胞が子宮頸がんの原因であるウイルスに感染しているかどうかがわかります。

「HPV 検査」で何がわかるの？

100 種類以上の型がある HPV のうち、子宮頸がんと関係がある、いわゆるハイリスク群は 13 種類とされています。このうち、16 型、18 型が最もがんに移行しやすいタイプで、日本人の子宮頸がんの約 60%はこのタイプで、感染した後の進展スピードが速いと言われています。弊院ではハイリスク型 HPV に感染しているかに加えてそれが 16 型、18 型の感染であるか否かがわかる簡易ジェノタイプの検査を実施しています。